

13年にJリーグ準加盟 JFL参戦即J3へ昇格

11月19日に開かれたJリーグ理事会で、山口県全県をホームタウンとするレノファ山口のJ3加盟が正式承認された。同日午後4時過ぎ、山口市内で承認の電話を受けた河村孝社長は「昇格で終わりではなく、ここから本当に大事な時期になる」と語り、新しいステージでの飛躍を誓った。山口は11月9日のJFL後期最終節で栃木ウーヴァに1-0と競り勝ち、順位条件のJFL年間4位以内を確定させていた。

1949年結成の県教員団を母体とし、2006年にJリーグを目指すクラブとして発足した。レノファとは、明治維新の志士たちを輩出した歴史にちなみ、維新（リノベーション）、戦う（ファイター）、元気（フライン）を組み合わせた造語。チームカラーは夏みかんが特産の同県に合わせたオレンジで、エンブレムには国宝瑠璃光寺五重塔や長州藩の紋章があらわされている。山口県が丸ごと入ったような地域のシンボルだ。チームは中国リーグで常に上位を争ってきたが、岡山ネクストや佐川急便中国など強豪がひしめくなかで苦戦。08年から3年連続で地域決勝大会には駒を進めたものの、苦杯を喫してきた。11年に山口県出身で広島、湘南などで活躍してきた中山元氣（現コーチ）が加入。県内各地で開催していたホーム戦を山口市の維新百年記念公園内の施設に集中させ、翌年には同市中心商店街に事務所移転とオフィシャルショップ開設、チームの強化と同時に環境整備や広報活動も本格化した。

13年にJリーグ準加盟となり、同年の中国リーグでは3位に終わったが、J3発足に伴ってJFLの門戸が拡大し、クラブとしては初めての全国リーグ昇格を果たした。迎えた14年は、新潟ユースや金沢での指揮経験がある上野展裕氏を監督に据え、選手も新卒や他のJFLチームで燦っていた若手を多数獲得。期限付き移籍選手を除く全選手がアマチュア契約を結び、サッカーと別の仕事の二足の草鞋を履くなか、チームは次第に力を付けていった。

新加入の岸田が得点王 環境面も徐々に改善傾向

上野新体制では後方から組み立てるサッカーを目指したが、序盤戦は勝ち星に恵まれず、JFL前期は6位に沈んだ。挽回の一手として夏に期限付き移籍で山崎侑輝（↑熊本）や西森正明（↑長崎）らを獲得。さらに、裏へのスピードが武器の岸田和人の特長を最大限に引き出し、後期の序盤戦は盛り返しに成功する。「後期前」に選手の間でも、まずは結果を出そうという話をしていった。若いチームなので流れに乗れば勝てる。前期に負けていた鹿原島（○3-0）とヴェルスバ大分（○1-0）に気持ち良く勝てたのは大きかった。

[J3昇格レポート] レノファ山口FC (JFL→J3)

“維新の地”からの挑戦

06年にJリーグを目指すクラブとして発足し、JFL参戦1年目の今季は年間4位でフィニッシュ。そして11月19日、Jリーグ理事会でレノファ山口のJ3加盟が正式に承認された。山口県初のJリーグチームが誕生した舞台裏に迫る。

取材・文・写真●上田真之介(フリーライター)



め切れなかったが、今のサッカーがJ3でもできれば負けたくない」と胸を張る。町田から今季新加入し、「朝の疲れていない状態で練習ができていく。仕事をしながらサッカーをしている選手も多いが、スポーツの協力は大きい」と、環境面も好調の要因に挙げた。

「選手、クラブ、サポーター、地元メディアがそれぞれの立場で頑張っ取り組んできた。どれかひとつでも欠けていたら、今の盛り上がりはなかったと思う」。地域リーグ時代からスタジアムDJを務めている吉永達哉さんにとっても感慨深い。観客数の爆発的な増加とJ3昇格は、関係者の汗が生んだ必然的なリンクだった。

13年6月に宮成GMの計画 関係者全員が誓った。恩返し

山口の昇格史のなかで、欠かすことのできない存在がある。「まず宮成さんの顔が浮かびました」。4位以上が確定した栃木ウーヴァ戦。その瞬間に上野監督の脳裏に浮かんだのは故・宮成隆前GMだった。クラブ創設に尽力し、最初の監督として指揮も執った。上野監督にとっても宮成氏は大学時代の先輩。旧知の間柄でもあった。

選手全員が喪章を巻いた。13年と14年ではコーチングスタッフと選手が大幅に入れ替わったものの、56歳の若さで逝去した故人のチーム愛と山口県初のJリーグチームを作ろうという強い意欲は新体制へと受け継がれていく。「宮成さんが掲げてきた想いに応えられたのかな」と。上野監督にも安堵の表情が浮かんだ。

上野監督は「J1を目指すクラブを作りたい」という河村社長の想いにも打たれて就任。山口のJ2、J1へのステップアップに向けて舵取りを図るうえで、すでに「J3の上位4チームに勝たなければいけない。まずは、その態勢を作りたい」と語り、鳥取や町田など上位陣への対策に乗り出している。クラブ予算はJ3のなかでは中堅規模で、選手全員のプロ化は難しい状況だが、それでも河村社長は「少ない予算でもJ2を狙う」と意気込む。



09年に中国リーグで戦うレノファ山口。試合会場は高川学園高のグラウンドで、当時は足を運ぶ観客もまばらだった

RENOFA YAMAGUCHI FC レノファ山口FC

創設年：1949年
ホームタウン：山口を中心とする山口県全県
ホームスタジアム：維新百年記念公園陸上競技場（略称：維新陸／収容人数：20,000人）
1949年に「山口県サッカー教員団」として創設され、2006年に「レノファ山口FC」が発足した。愛称の「レノファ」は、「Renovation（維新）」の頭文字「レノ」と「fight（戦う）」や「fine（元氣）」の「ファ」を合わせた造語。エンブレムは13年3月に一新され、山口市の瑠璃光寺五重塔（国宝）のシルエットに、中央のボールには長州藩の紋章をアレンジした模様が描かれ、外枠は盾をイメージ。チームカラーは山口県の色であるオレンジを採用している。

チーム成績 (レノファ山口が発足した08年以降)

年度	所属	順位	勝点	勝	敗	得点	失点	天皇杯	監督
2006	中国リーグ	4位	25	7	4	25	28	県予選敗退	宮成 隆
07	中国リーグ	3位	25	7	4	25	28	1回戦敗退	月岡利明
08	中国リーグ	優勝	38	11	5	0	45	県予選敗退	
09	中国リーグ	2位	40	13	1	4	53	2回戦敗退	
10	中国リーグ	優勝	43	14	1	3	51	2回戦敗退	
11	中国リーグ	2位	41	13	2	3	54	2回戦敗退	
12	中国リーグ	4位	32	9	5	4	47	県予選敗退	河村 孝
13	中国リーグ	4位	42	13	3	2	53	1回戦敗退	中山元氣
14	JFL	4位	51	16	3	7	51	県予選敗退	上野展裕

14年PLAYER

Pos.	No.	選手名	Pos.	No.	選手名	Pos.	No.	選手名
GK	1	寺田賢人	DF	32	藤本 大	MF	27	松元亮仁
	20	一森 純		78	内山勇斗		29	黒田拓真
	31	永富裕尚	MF	4	三浦旭人		30	飯塚 亮
DF	2	宮城雅史		8	坂本 博		35	山崎侑輝
	3	高田健吾		11	鳥妻祐太		39	平林輝良寛
	5	池永 航		13	岩淵良太	FW	9	岸田和人
	6	孫 正倫		14	小塚和季		19	三橋隼斗
	16	菊本侑希		15	梶野孝馬		21	岡本秀雄
	18	小池龍太		24	ジャン・ジョンウォン		28	島屋八穂
	25	吉弘充志		26	西森正明		33	ジョン・ミンヒョク

14年STAFF 監督：上野展裕 コーチ：中山元氣 トレーナー：福田智志 主務：安岡拓哉



11月19日、理事会からJ3入会承認の電話を受ける河村孝社長(左)と上野展裕監督(右)

それぞれの思い描く J2へのロードマップ

来季、チームはJ3からJ2への昇格も目指すが、維新陸のさらなる盛り上げも狙っている。「J2への道を描いていかないといけないですが、まずはホームで勝ち、ホームで愛されるチームを作りたい」。平林はそう未来を展望する。

県内に高川、西京などの名門校を抱え幾多の有名選手を輩出しながら、その受け皿に乏しかった山口県にようやくJリーグチームが誕生した。「たすきを引き継いで、これからの礎を築いていきたい」（上野監督） 150万県民の誇れるチームへ、維新の胎動期が、志士が茨の道を切り開いていく。